あすも

〈区社協事業紹介Part7 送迎サービス事業〉

通常の交通手段では移動が困難な高齢者や障害者の通院やリハビリ訓練などの外出を支援するために、これまで区内の送迎サービスを担ってきた〝サークル鶴の恩返し〟の協力を得て、平成10年4月1日から開始した事業です。

現在、〝鶴恩〟から引き継いだ社会福祉協議会所有の車両は4台あり、そのうち2台はリフト付なので、車椅子のまま乗車することができます。

これらの車両や場合によっては、運転ボランティア所有の自家用車両を使って、運転ボランティアが、目的地に送迎します。

＊利用日及び利用時間
火曜日から土曜日（国民の祝祭日及び年末年始を除く）の午前9時から午後5時まで

＊利用範囲
鶴見区内及び近隣区域

＊利用方法
送迎サービスを利用したい人は、事前に会員として登録します。（登録時には、入会金1000円と保険料が必要です。）

実際に利用したいときは利用予定日の3日前までに申し込みます。

＊費用負担
利用者は、燃料費、有料道路代、駐車料金等をご負担いただきます。

燃料費は片道1回500円（12・5km以内の場合）。

区社協送迎サービス事業の拠点となっている潮田地域ケアプラザで、皆様からの電話をお待ちしております。

詳しいことは、
鶴見区社会福祉協議会
鶴見区鶴見中央3―19―11
鶴見会館1階
☎504―5619
FAX504―5616
利用の申し込み・問い合わせは
送迎サービス専用電話
☎502―2686
鶴見区本町通り3―171―23
潮田地域ケアプラザ内
FAX507―2930

〝つるみ福祉ボランティアフォーラム〟を開催します。

鶴見区内で活動しているボランティアの情報交換や交流を図り、連携を深め、ボランティア活動をよりいっそう活発にすることを目的として、〝ボランティアフォーラム〟を11月下旬に開催しようと準備を進めています。

【問い合わせ】鶴見区社会福祉協議会
☎504―5619

善意の寄付をありがとうございました。

平成10年1月1日～平成10年6月30日　（　）内は寄付回数です。

金銭をお寄せいただいた方々

三須　洋子様(5)　阿佐　貞太郎様(6)
五神　嘉子様(5)　工藤　高之祐様(7)
荻島　克子様　村上　照恵様
米山　マツ様(4)　河西　英彦様
浅海　武夫様　亀山　實様
中嶋　昭様　中川　きよの様(2)
貴田　米吉様(3)　樋高　禮子様
竹村　タカ様(3)　小野　梅子様
小野　芳太郎様　尾崎　美津子様
戸井田　啓治様　水沢　清吉様
白　蓉子様　斉藤　百合子様
股野　藍子様　西脇　和子様
村田　健二様　千葉　サトミ様
浅野　忠太郎様　匿名
珈琲館サカ
旭硝子労働組合京浜支部様
旭硝子労働組合本社支部様
末吉ダンスフレンズ様(2)
鶴見区更生保護婦人会様
ふれあいフェスティバル実行委員会様
矢向地区センター1周年記念
フリーマーケットの会様
横浜教区婦人会様
ニューツルミゴルフ練習場様
金光教生麦教会様
おっさんネットワーク様
社交ダンスサークル華の会様
横浜鶴見西ライオンズクラブ様
静和会様
ジャスコ㈱駒岡店様
／富士コカ・コーラボトリング㈱
鶴見営業所様
鶴見区民踊愛好会様
杉山神社保育園様
横浜火力建設請負会社協力会様
鶴見区自治連合会婦人部様
白鵬幼稚園父母の会様
鶴見懇話会様　鶴見建設業組合様
潮田地区センターをかこむ会様
㈱日本盆栽協会横浜東支部様
寺尾フラダンス愛好会様(2)
横浜市寺尾地区センター様
小料理さつき様　アクア鶴見様
新日本自動車学校様
鶴見北モラロジー事務所様
国際ソロプチミスト横浜東様
ライオンズクラブ国際協会330―B地区様
日本ボーイスカウト鶴見区連絡会様
横浜鶴見ライオネスクラブ様
はなびら会様

物品をお寄せいただいた方々

竹田　冨美様　岡野　誠一様
簡　照子様(2)　永田　萬治様(2)
飯村　光一様　斉藤　晴美様
塚田　康雄様　小林　利恵様
阿部　春之助様　林　康民様(2)
松元　貞子様　林　昌孝様
池畠　明子様
神奈川県競輪競馬労働組合様
横浜鶴見ライオネスクラブ様(4)
日航商事㈱特販部様
手話サークルあいうえお様(3)
久保田行政書士事務所様
パチンコ吉兆グループ様(4)
東京電力㈱様

「れんげの家」10周年記念行事



「れんげの家」（作業所）が10周年を迎えるにあたって記念行事として、平成10年7月2日、作業所利用者の体験発表会と演奏会を行い楽しいひとときを過ごしました。

福祉つるみ

第30号　平成10年9月1日発行

編集・発行　社会福祉法人
横浜市鶴見区社会福祉協議会
TEL.504-5619
FAX.504-5616
印　刷　朝日オフセット印刷株式会社

題字：林　眞治氏

本紙は自治会・町内会のご協力で全世帯に配布しています。

ひとり暮らし高齢者定期訪問

鶴見区では、ひとり暮らし高齢者定期訪問を平成8年6月から始め、民生委員Aさんは発足時からBさん宅を訪問しています。

Bさん（82歳）は生け花教授。よく玄関は網戸にしてある。チャイムを押すと、少し間を置いて、Bさんが現れる。玄関先で立ち話。娘さんからは毎日安否確認の電話があり、今日も長女から「暑いから外出を控えた方がよい」と電話があったばかり。三女はお茶屋さんを経営しており、近くに来たおりには必ずと言っていい程Bさん宅に立寄る。息子さんも様子を見に来てくれるという。周りの人も良く気を使ってくれるので、いま生活上で特に困っていることはないと言う。Aさんは近くの公園愛護会会長で、Bさんも公園愛護会会員なので、次回の公園の清掃作業の依頼などでもよく訪問する。

このように行われているAさんのBさん宅への定期訪問の一部を紹介してみます。

平成8年7月15日（月）第1回目の「定期訪問」を行う。補聴器を使用しているため会話は不自由ではない。訪問中に三女から安否の電話が入る。隣人のSさんがとても気を配ってくれている。最近は老人会に出席し、ふれあいをひろげている様子。

8月12日（月）つい先程まで、娘さんが様子を見にこられていた。皆さんに気を配っていただいてと感謝していた。

9月16日（月）地区開催の敬老会で出会う。お元気で参加されていた。

10月12日（土）ふれあい昼食会（11月12日）の案内状を持参する。出席の返事を受ける。

11月12日（日）地区センターでのふれあい昼食会でお会いする。お元気で参加。

平成9年1月19日（日）午後訪問する。お元気であった。例年正月元日には家族が集まることになっており、今年は13人であった。一昨日と昨日は伊豆にいってきたとのこと。

2月2日（日）昨日は娘3人と中華街で食事を共にしたとの話。玄関には、ガクアジサイとチューリップの「へいれつけい」がとてもきれい。これが小原流だとのこと。

平成10年1月17日（土）14、15日の降った雪が大分残っている。どんな様子か見に伺う。まだ、たくさんの雪。でも変わりなくお元気であった。

2月14日（火）3月10日開催の「老人福祉講座」の案内状を持参する。フキノトウが採れたとのこと。

3月10日（火）「老人福祉講座」に出席予定のところ、風邪をひいて不参加。お体を大事にするよう話す。

4月19日（日）お元気。煮物をしながら、洗濯物を干し、煮物を焦がしてしまったとの失敗談を話してくれる。火だけはくれぐれも注意するように話す。

5月31日（日）玄関が網戸になっていた。やはり気をつけるようアドバイス。お花の先生らしく玄関にお花が生けられていた。家族のことまで話が発展した。



「お元気で、お若いですねえ…」

ところで、民生委員、友愛活動推進員、保健指導員など地域の方々の協力で、ひとり暮らしの高齢者を定期訪問することは、見守り・安否確認体制づくりをすすめ、把握された生活上の問題などを区役所につなげ、解決していくことを目的としています。この定期訪問によって、潜在的な福祉ニーズの早期把握が可能となり、この定期訪問が地域に定着すると、災害時の迅速な対応も期待できます。

対象者は区内に在住する65歳以上のひとり暮らしの高齢者で訪問を希望する人に限っています。

鶴見区内には、この定期訪問を希望する高齢者が1、639人（平成10年4月実績）います。訪問回数は、月1回以上としています。把握した生活上の問題をどう解決していくのかですが、区役所は地域ケアプラザ等の福祉施設や福祉サービス協会等関係機関と連携を図って、必要なサービスを提供し、解決に向け努力しています。今後はより一層きめ細かな定期訪問が望まれています。

承認鶴見区第21号

第34回 全国身体障害者スポーツ大会（ながわ・ゆめ大会）開催近づく

～台湾からも国際交流～

ゆめ大会関連イベントのひとつとして、新横浜ふれあい広場で行なわれるコンサートに出演のため、台湾から台北心韻合唱団と台北特殊才芸団の皆さんが来日します。心韻合唱団は視覚・聴覚・肢体に障害のある方々ですが、日頃の練習の積み重ねによる素晴らしい合唱を聞かせて下さいます。また、特殊才芸団は同じく、障害のある方々がピアノ・バイオリン・声楽などのプロとして演奏活動をしている団体です。かながわ・ゆめ大会の合間を縫って心の歌コンサートにも出演いたします。



この歌声がもうすぐやって来ます

心の歌コンサート
日時　11月7日（土）14時～16時
場所　鶴見公会堂
主催　YOKOHAMA つるみ 童謡の会
問い合わせ先
☎581―0379　中川 千恵子

国民体育大会秋季大会の開催県で昭和40年から始まった同大会が、11月7日・8日に行なわれます。横浜国際総合競技場では開・閉会式、陸上競技が行われ、横浜国際プールでは水泳とバレーボール、保土ケ谷公園ではグランドソフトボールとアーチェリー、川崎市のとどろきアリーナでは、車椅子バスケット等、横浜ラポールでは公開競技のビームライフルが行われます。鶴見区在住者で参加予定の主な選手は次の方たちです。

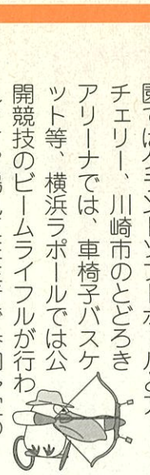
飯田有香子さん（水泳）
滝川　裕さん（アーチェリー）
菊地武実さん（陸上競技）
内山博史さん（　同　）
後藤博史さん（　同　）
橋本清志さん（グランドソフトボール）
柿崎　剛さん（車椅子バスケット）

飯田さんは前回の大阪大会では自由形の2種目で金メダルという素晴らしい成績でした。

今回も目標はもちろん金。

他の方々は初出場、それぞれの目標に向かって皆さんのご健闘をお祈りします。当日、お手伝いをしてくれるボランティア（ゆめサポーター）さんも9月いっぱい募集しています。

【問い合わせ先】大会事務局
☎201―1111



「ふれんどーる鶴見」が開所

～10月から週5日実施～

脳卒中の後遺症などで障害者となった方々の社会復帰を支援するため、区役所を中心にしてリハビリ教室等が開催されています。

しかし、中高年の方々の活動の場は少なく、社会参加の機会を増やして欲しいとの声に応え、区内に中途障害者地域活動センターが開所されることになりました。ここでは、ボランティアの方たちの協力を得て、自主的な活動を行なうことが原則で、ワープロ、紙すきなどの軽作業を楽しみながらリハビリを行なったり、レクリエーションで仲間との交流を図るなど、社会復帰のための準備が行なえる拠点となります。場所は区役所の隣、鶴見大栄ビルの1階です。

7月から週1回実施しています。10月からの本格実施に向けて、準備が進められています。

【問い合わせ先】
福祉保健サービス課
☎510―1776



『にこにこ会』のスポーツリハビリ

同会は脳卒中の後遺症などで障害者となった方々のサークルで、リハビリとして、ローリングバレーを行っています。ゲームのルールは、サーブ、スパイクなどは手で打って転がし、ネットの下をくぐらせなければいけません。あとはほぼバレーボールと同じ、15点先にとれば勝ちです。

区役所が開催しているリハビリ教室の修了者により昨年2月に結成されたこの会は、現在会員数20名、ボランティア8名で構成されています。結成時のまとめ役で会長の山崎さんにお話を伺いました。

『当初は、ユニホッケーなどもやっていたのですが、去年の文化交流会のローリングバレー大会で入賞して以来、これ一筋に練習しています。』

ボランティアの方も『リハビリとしての効果はあると思います。ボールを追うことで腕の動きもよくなり、参加当初は打ち解けなかった方も練習を通じ、他の人達と言葉を交わすようになりました。』

練習は毎月第2・4木曜日の午後、鶴見スポーツセンターで行っています。興味のある方は、是非一度見に来て下さい。



鶴見区子ども・家庭支援センター相談受付中

平成9年10月に保健所の中に設置されました。

スタッフは、教育相談員・カウンセラー・保健婦・保母で構成されています。

乳幼児から学童期・思春期の子どもに関する相談をお受けしています。

乳幼児期の子育て、学童期のいじめや不登校、思春期の子どものことなどあらゆる相談を電話や面談などで、また場合によってはカウンセラーによるカウンセリング等で受けることができます。

これまでも、相談ができる場はありました。しかし、身近な区役所で、しかも保健・福祉・教育の専門家と一緒に相談できる場は初めてです。

小さな心配ごとだからと一人で悩まないで、気軽に利用してください。

相談することで、ヒントが得られたり、新たな気持ちで子育てに向き合うことができるようになることもあるでしょう。

これまでの相談内容では、乳幼児に関することが最も多く、次に、食事、しつけ、病気のことなどがあり、続いて小学生と中学生の不登校、情緒面、学業不振などとなっています。

相談ニーズは高いと考えられますので、より一層のPRをはかり多くの区民に利用していただきたいと考えています。

また、今年度は関係機関による「鶴見区子ども・家庭支援センター連絡会」を開催します。関係機関が連携を深めることにより、相談の充実を図ります。

子どもが、地域の中で健やかに育っていくための小さな支援ですが、少子の時代には必要な支援システムの一つと考えます。

【問い合わせ先】
☎510―1840

"この夏一本（まじ）で本気でボランティア"

中学生、高校生を対象としたボランティア体験講座が、夏休みに入ってすぐの平成10年7月21日から25日までの5日間にわたって寺尾センターを中心に開催されました。

この講座は夏休みを利用して福祉やボランティア活動を知るきっかけになればと、区社協・寺尾センター・潮田地域ケアプラザ・寺尾地域ケアプラザが共同して企画し、今回で3回目となります。

今年の参加者は27名。体験先を保育所に希望した人が圧倒的だったのが、今年の特徴でしょうか。

第1日目はコミュニケーションの大切さとその方法の一つである手話について、2日目の午前は相手の気持ちになって考えてみることをゲームを交えて、午後には車椅子バスケットボールを障害者の方の話を聞きながら、体験しました。

3日目からは、いよいよ2日間の体験が始まります。

地域作業所や保育所、地域ケアプラザなど9施設や自然保護活動、リサイクル活動に分かれ、1ヶ所あたり2～3名が体験しました。

最終日は実習先での体験をそれぞれが報告し、自分たちの身近でできるボランティア活動とは何かについて考え、5日間にわたる講座は終了しました。

初めて体験する人、将来福祉関係に就職したいと思っている人等さまざまでしたが、みんな常日頃とは違う体験に一生懸命取り組んでいました。

お年寄りが大勢いることに気づいたこと、障害者が日常生活していくうえで不便なことが多いこと、こどものエネルギーの大きさに驚いたこと等感じたことが発表されました。

今回取り組んだことをこの夏の宝物のひとつとして、これからの活動の一歩に役立ててもらえればいいなあと思いました。



報告会で発表する生徒さん

サルビア

「うちのおじいちゃんは頑固なんだから」が我が家の口癖。薪風呂が原因であったり、携帯電話の使い方もマスター出来ない、日進月歩の諸道具を使いこなせない頑固さを恥じ入っております。もっともっと「ソフト」な気持で新時代についていかなくてはと反省。

ただ、私達が育った無い物づくめで知った物の尊さは忘れないで生きたい。いくら使い捨ての世の中でも物にも命があります。今、私が生かされるのもこのお陰であると受止めたい。ましてや人間の生命の尊さも軽視される世の中、新聞紙上の犯罪にも殺す、殺されたが多い。なぜお互いの命を尊重しあえないのでしょう。もっともっと共同互助の世の中にしたい。そんなことから一人暮らしの定期訪問を取り上げてみました。また、民生委員担当で65歳以上の無作為選出の高齢者一般調査が実施されましたが「私は介護保険にはお世話になりませんから」と拒否した人もあったとか。人様々「老いては子に従え」の諺の通り素直に生きたいものです。

（横井　久運）

平成９年度鶴見区社会福祉協議会事業報告

平成９年度は、鶴見区地域福祉活動計画の実施計画に基づいて重点項目事業を実施し、重点目標として①地域福祉団体交流センターの効率的な運営に努めました。②ボランティアセンター機能充実に努めました。③ホームヘルパー養成研修（３級課程）を実施しました。以下、区社会福祉協議会の重点・新規事業を中心に平成９年度事業の概要を紹介します。

地区社協活動の充実強化と支援

地区社協で開催する高齢者会食サービス事業、配食サービス、ミニデイサービス、区民ボランティアの育成、支援を実施しました。

小地域活動拠点の支援として、高齢者会食サービス用の備品整備を２地区社協について行いました。

地域ケア推進（パイロット）地区活動の支援を区役所、潮田地域ケアプラザと協働で実施しました。

地域で行う各種の行事や事業59件に出席し、地域住民の福祉理解と促進を図りました。

福祉理解のための広報啓発活動

10年2月7日鶴見公会堂ホールで、第16回鶴見区社会福祉大会を開催しました。この大会で区内の福祉功労者の顕彰と地域住民の福祉の意識啓発を図りました。

地区社協が地域住民を対象に福祉啓発事業として行った講座で、地域の在宅福祉活動の充実のため区役所福祉保健サービス課、保健所と協働で講演・説明会等を10地区で福祉保健講座として実施しました。

福祉広報活動として、「福祉つるみ」を鶴見区福祉の風土づくり推進委員会と共同で、２回発行し、区民の福祉理解促進を目的として自治会・町内会を通じて全戸配布を行いました。

「区社協だより」を5回発行し、区社協の事業計画・予算、賛助会費の募集、事業報告、年末たすけあい募金、善意銀行の配分の報告等を行い、区民の福祉理解促進を図るため、自治会・町内会を通じて回覧しました。

その他、区社協パンフレット等の配布や鶴見区地域福祉活動計画ダイジェスト版の配布等により、広報啓発を行いました。

福祉啓発講座等の開催

地域ケアサービス推進事業との共催事業としてホームヘルパー講演会、地域ケア普及啓発・福祉機器展、地域ケア事例発表、講演会等を開催しました。

在宅障害者の通院・社会参加活動等のため車椅子を貸し出しました。

潮田地域ケアプラザを拠点とした地域ケア推進地区活動の各種事業の支援・助成を実施しました。

ボランティア活動推進事業

ボランティア育成を目的に地域団体・グループ等の研修会、講演会等を支援しました。主なものとしては、ホームヘルパー2級養成講座、この夏まじでボランティア、中学校福祉体験教室、小学校福祉講座、リハビリ教室ボランティア講座等です。

ボランティア及び地域福祉団体の活動拠点として鶴見区地域福祉団体交流センターを確保し地域に密着したボランティア活動の育成・助成を行いました。

ホームヘルパー養成研修（３級課程）を2回実施し、鶴見区における在宅福祉サービスの充実と地域に密着したホームヘルプ活動の展開を図るよう努めました。ホームヘルパー養成研修修了生の各期毎にグループを結成し、地区社協の協力のもとにボランティア活動の育成を図りました。

送迎サービス事業については、原則として鶴見区内に居住する高齢者や障害者等で通常の交通手段での移動が困難な方を対象に、福祉保健医療サービス等の利用または社会的活動のための外出を支援し、福祉の向上を図ることを目的として、10年3月1日から当分の間はボランティアサークル鶴の恩返しトランスポート部を協力団体として送迎サービス事業を実施しました。

ボランティアデーターベースの作成については、区内のボランティアニーズとボランティアのコーディネイト業務を効率化するためのOA機器によるプログラムが完成し、平成10年度から稼働することになりました。

当事者活動の支援と連携の強化

障害児者福祉事業としては、鶴見区障害児者団体連合会への助成を行い、障害児者団体の連携の強化及び自立促進を図るため援助・協力を行い、同連合会を通じて加盟26団体に対して助成を行いました。

障害児者団体連合会が実施する事業に対し援助・助成を行いました。

主なものは、福祉青空バザー、ふれあい運動会、鶴見区民文化祭「障害児者作品展」、鶴見区民文化祭協賛バザー、障害者の日街頭キャンペーン、年末もちつき大会、障害児者団体バスハイク等です。

高齢者福祉事業としては、地域敬

老事業助成として、敬老月間（9月）の各地区行事に対して支援しました。
高齢者会食・配食実施団体助成として13地区社協3団体に助成しました。
ねたきり高齢者等の介護者の日頃の心身の労苦を軽減しリフレッシュを図るための行事を区役所・ボランティアの協力により実施しました。
児童福祉事業としては、学童保育事業助成を11団体に行いました。
親子美術展に助成した他、母子家庭児童・交通遺児家庭児童（小学生）を対象に夏休みを利用し、青少年指導員の協力により親子の交流と自然とふれあうことを目的にサマーデイキャンプを実施しました。
児童と高齢者の交流事業として、児童と地域の高齢者が食事（給食）を共にしながら交流することにより、高齢者を理解し思いやりの心を学ぶことを目的に実施した地区（10地区）に助成しました。

福祉ニーズの把握と福祉情報の提供

福祉総合相談事業の効率的な運営を図るため、相談所の利用状況を調査した結果に基づき、平成10年4月1日から地域福祉団体交流センターで月2回弁護士による相談を実施することにしました。
福祉ニーズの把握のため、地域高齢者食事サービス活動アンケート調査、ねたきり高齢者介護実態調査、ホームヘルパー養成研修（3級課程）修了生の活動状況調査を実施しました。

平成9年度一般会計決算

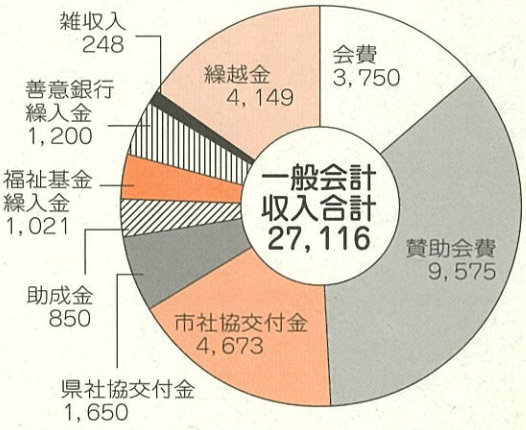
収入支出決算総括表

（単位：円）

会計名	収入決算額	支出決算額	差引額	備考
一般会計	27,116,623	21,427,930	5,688,693	
共同募金配分金特別会計	16,001,973	14,299,265	1,702,708	
善意銀行特別会計	29,353,255	16,917,532	12,435,723	
福祉基金特別会計	9,751,999	9,021,029	730,970	積立金 112,938,495
福祉総合相談所特別会計	1,597,502	993,361	604,141	
合計	83,821,352	62,659,117	21,162,235	

（単位：千円）

〔収　入〕



総合貸借対照表

（単位：円）

資産の部		負債・純財産の部	
流動資産	134,233,570	流動負債	132,840
預金	134,233,570	未払金	132,840
固定資産	7,151,018	基金	7,151,018
基本財産	3,000,000	基本財産基金	3,000,000
運用財産	4,151,018	運用財産基金	4,151,018
		積立金	112,938,495
		繰越金	21,162,235
合計	141,384,588	合計	141,384,588

〔支　出〕

